

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<b>11</b>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<b>2</b>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<b>6</b>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<b>11</b>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<b>合計</b>	<b>30</b>

事業所番号	3170100683
法人名	社会医療法人 明和会医療福祉センター
事業所名	グループホーム オータムハウス
訪問調査日	平成20年12月18日
評価確定日	平成21年 2月25日
評価機関名	特定非営利活動法人 鳥取社会福祉評価機構

**○項目番号について**  
 外部評価は30項目です。  
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。  
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。  
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

**○記入方法**  
 [取り組みの事実]  
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。  
 [取り組みを期待したい項目]  
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。  
 [取り組みを期待したい内容]  
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

**○用語の説明**  
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
 家族 = 家族に限定しています。  
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。  
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。  
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	3170100683		
法人名	社会医療法人 明和会医療福祉センター		
事業所名	グループホーム オータムハウス		
所在地 (電話番号)	鳥取県鳥取市覚寺51-5 (電話) 0857-25-1151		
評価機関名	特定非営利活動法人 鳥取社会福祉評価機構		
所在地	鳥取市湖山町北2丁目116番地		
訪問調査日	平成20年12月18日	評価確定日	平成21年2月25日

## 【情報提供票より】(20年12月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成13年10月15日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤 8・非常勤 3	常勤換算 8.7 人

### (2) 建物概要

建物形態	単独型	新築
建物構造	鉄筋造	
	2階建て	1階 ~ 2階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	33,000 円	その他の経費(月額)	12,000 円
敷金	有( ) 円	<input checked="" type="checkbox"/> 無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( ) 円	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,100 円		

### (4) 利用者の概要(12月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	2 名	要介護2	3 名		
要介護3	3 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.7 歳	最低	78 歳	最高	92 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	渡辺病院・横浜内科小児科医院・ひろ歯科医院・葉狩皮膚科医院
---------	-------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

鳥取市北部の住宅と商業施設が混在した幹線道路沿いに位置する単独型のグループホームである。管理者の認知症介護経験は17年以上と経験豊富であり、計画担当者や一般職員も8年以上とベテラン揃いである。職員研修は経験年数別に行われている。利用者の要介護度の平均は2.4であるが、年を追う毎に介護度が進んでいる。利用者はゆっくり、ゆったりとそれぞれのスタイルで過ごしており、食事時の職員のケアもゆっくりと優しく声をかけながら細かなところにも、それとなく気を使いながら自然な形で支援している。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価では3ヶ所の指摘事項があった。介護計画に家族の希望や意見の反映の項目では介護計画を毎月見直しており、その時にチェックをすることにより、家族の意見や記載漏れのチェックをしており、又法人の介護支援専門員の指導も受けている。
①	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価も前回同様に全員が全項目を実施する形で取り組んでいる。その後管理者がまとめるという形で行なっている。職員は自己評価、外部評価ともにその意義を理解しており、日頃のケアを振り返る良い機会として捉え、積極的に参加している。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	昨年までは法人内のグループホームが合同で年3回実施していたが、今回からは合同での実施が年3回、オータムハウス単独での実施が年3回となり定期的に2ヶ月に1回開催されるようになっている。単独開催では行政、地域代表等6名での開催ということもあり、合同での開催の時よりも、施設により密着した意見が活発に出されており、参加者すべての発言が見られ、行政からの高齢者介護の現状報告も有り有意義なものになっている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	ご家族が来所された場合には担当以外のご家族にも気軽に声をかけ、時間が有ればお茶を出したりしてなごやかに過ごせるようにしている。行事や気づいたことや医療面でのこと等を伝えている。金銭出納帳は毎月送付しており、ご家族の来所時にはサインを頂いている。家族会は年2回開催されており、ご家族の意見を取り入れる努力をしている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	管理者、職員共に孤立しないためにも地域との交流の大切さを理解して地域との交流に積極的に係るように努力している。季節ごとにグループホームの新聞を発行し地域に配布したり、近所の幼稚園児との交流を年間6回は図っている。その他にもボランティアを受入れたり、近所のスーパーに買い物に行き顔なじみにもなつて親しく会話を交わしている。
④	

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営理念とは別に「ゆっくり、一緒に、楽しく」という生活理念を制定し、利用者と共に有る介護を目指している。利用者に手を出しすぎない介護を心がけている。管理者会議やスタッフミーティングを月に1回は開催し、運営理念や生活理念、介護の方向性や介護の基本を再確認している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は前期及び後期の目標を設定し、日々の介護が運営理念や生活理念に基づくものになっているかを見直している。利用者に対しては尊厳を持って、上からの目線で話さない、その場面に合った声の抑揚や大きさ、動作はゆっくりする等の事を心がけ実践し、利用者全体と個々のバランスに注意している。		
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域主催の納涼祭や敬老会等へは積極的に参加しており、季節ごとにグループホームだよりを発行して地域にも配布している。地域の幼稚園児の来所は年に6回有り、ボランティアの方も多く来所して歌やお話等色々なボランティア活動を楽しんでいる。近所のスーパーの方も懇意にして顔馴染みになっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	事前に自己評価や外部評価の意義や目的を説明した後自己評価表を全職員に配布し、全職員が全項目を作成して管理者がそれをまとめるという方法で行なっている。前回の外部評価での指摘事項は優先順位を付けて改善に取り組んでおり、前回の外部評価での指摘事項はすべて改善されている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	前回までは法人内のグループホームが合同で行なわれていたが今回は合同で3回、単独で3回と年間6回開催されている。オータムハウス単独での開催では参加者は6名と少人数のため参加者全員の発言があり、内容的にも充実した意見が多く単独開催のメリットが出ている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議以外でも季節ごとに発行するグループホームだよりを届けたり、レベル3以上の事故の場合は報告している。鳥取市の担当者からもメール等で情報の提供もあり鳥取市との連携も図れており、相談等があれば鳥取市へ相談等を行なう体制は整えている。		
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ご家族が来所された場合には積極的に声かけをしており、ご家族と利用者本人が和やかに過ごせるように心がけて、お茶を出したり気づいた事を話したりして利用者本人の言葉で伝えている。季節毎のグループホーム新聞や毎月の報告書でも日々の生活状況は伝えており、状態が変化した場合は電話連絡をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に2回は家族会を開催しており、その時にご家族同士で話し合ったり、職員とも話しあって苦情や相談、日々の利用者の様子を報告したりしている。ご家族が来所の時にはなるべく意見を聞くように心がけており、どんな小さな事でも職員全員で意見交換してご家族の意見が反映できるようにしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	今年度は職員の異動は無かった。運営法人は社会医療法人であり、医療施設と3ヶ所のグループホームを運営しているが、グループホームの職員の異動にはグループホーム間での移動を考えており、異動する場合の引継ぎ等のシステムは管理者、職員別に整備されている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者及び職員は自らのスキルアップに積極的に取り組んでおり、協会主催の相互研修や各種研修に公休日を利用するなどしており、月に1回のケアプラン作成研修には法人の介護支援専門員の指導を受け、又ケアプラン作成時にも助言を受けるなど非常に熱心に取り組み成果を上げている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	協会主催の相互研修に参加して他のグループホームに研修に行き、又他のグループホームの職員を受入れており、研修を通じて交流を図っている。近隣のグループホームには季節ごとに発行するグループホームだよりを届けたりしており、法人外のグループホームとも情報交換は行なわれている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	申込みがあった時点で管理者及び職員がご自宅や入所先にお伺いして、本人やご家族と面談し現在の環境や本人とご家族の意向を十分に把握し、利用前に施設見学をしていただいたりして、本人やご家族とのコミュニケーションを十分に図り、利用者本人にリロケーションギャップが起きないようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	それぞれの利用者の得意分野や出来る事を把握し、その人、その日に応じた仕事や趣味を一緒にしながら生活理念である『ゆっくり、一緒に、楽しんで』の理念どおりの介護を実践しながら利用者に対する尊厳を忘れない介護を行っている。一緒に過ごす中から色々教えていただいたりして互いに支えあっている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話やその日の顔色、表情を細かく観察して言葉に出てこない思いを把握するように努めている。又ご家族が来訪された場合にはご家族にも聞いていただいたり、ご家族の意見も聞いてスタッフミーティング等で職員間で情報の共有をして利用者本位のケアができるようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月のモニタリングをベースに利用者本人、ご家族の意向を取り入れて担当者が介護計画の原案を作成し、それをスタッフ会議で他のスタッフの意見も参考にして毎月作成している。法人の介護支援専門員にも見ていただいており、利用者にとって最適な計画になっているかのアドバイスをもらっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは毎月行われており、定期以外にも随時の見直しも行われている。介護計画は利用者それぞれの現状に即した介護計画が立案されており、一人ひとりの計画が丁寧に詳しく記載されている。計画の達成度と評価も詳しく記入されており、介護計画の作成、管理には目を見張る程素晴らしいものがある		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	認知症対応型通所介護の指定を受けており、認知症デイサービスを実施している。ショートステイも実施しているが通常は空室がなく、退居者があった場合にのみ新規入居者の試用期間としての利用となっている。介護保険サービスだけではなく、自主サービスとして医療機関への付き添い等も行なっている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	歯科、皮膚科等は近くの医療機関を協力医として紹介しているが、基本的には利用者のかかりつけ医に受診してもらっている。受診時には近況報告書を作成し医療機関に提出している。ご家族の付き添い受診の場合は医師からの情報を詳しく聞いてフォーカスに記録しており、医療情報の共有はできている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重要事項説明書の中に重度化した場合の対応が記載されており、重度化した場合にはご家族、主治医、グループホーム管理者等で話し合いながら同一法人内の病院で適切な療養環境で治療が継続出来るように対応する旨説明されており、実際にその体制が取られている。利用者、ご家族も了解されている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	人生の先輩としての尊厳を傷つけないように心がけており、失禁やトイレ誘導の時にも他の利用者に分からないように声かけをし、風呂にもカーテンを設置してプライバシーの保護に留意している。不用書類はシュレッダーを使用しており、個人情報の保護にも努めている。研修は法人での研修を受講している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員のペースに当てはめるのではなく、日々のふれ合いや会話の中で利用者それぞれの思いを探りながら本人に理解できるように声かけをしたり、難聴の利用者には筆談をしたりして、職員間で情報を共有しながらその日の気分や体調に合わせて買い物、ドライブ、畑作業、縫い物等の支援を行なっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者それぞれの能力や役割に合わせて買い物や準備、調理、盛り付け、後片付け等利用者と職員が一緒になって楽しみながら行なっている。利用者から食事の希望を聞いたり、自家菜園の畑で取れたさつまいも等の旬の野菜を使って季節感を取り入れている。全介助の利用者も同じテーブルで食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間は夕方と大体決まっているが、声かけをしたリ湯温度の調整をしてゆっくりと入浴を楽しめるように工夫している。家で使っていたシャンプー等を持ってこられたり、ゆず湯等で季節感を感じてもらおう工夫も行っている。全体的にADLの低下が見られ全介助の利用者も有るが入浴を楽しめるように工夫している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴や日々の会話の中から本人の希望や出来ること、出来ないことを見極めてそれぞれに合った役割を持てるように食事の準備、洗濯物干し等日々の活動以外にも、庭木の剪定、干し柿作り等季節に合わせた活動の支援を行っている。散歩や買い物、ドライブ等で気晴らしへの支援も行なっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望や体調、その時々季節や状況にあわせて行き先を決めており、買い物やドライブ、喫茶店、催し物会場、なじみの店等への外出を支援している。歩行困難な利用者には車イスを利用して他の利用者と同じように行動できるように支援している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者や職員は鍵をかけない暮らしの大切さを十分に理解しており、自由な暮らしを支援している。日中は玄関には鍵をかけておらず、外出者には職員が見守ってさりげなく声をかけて対応している。居室には本人が中から鍵をかける以外は外からの施錠はしないようにしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導のもとに避難訓練や避難経路の確認、消火器の使い方等の訓練を年に2回実施している。母体法人や警備会社との緊急連絡体制は整備されており、マニュアルや非常食、備品等の整備もされている。夜間巡視の時には警備会社への連絡端末を持って巡回を行っており、防災への意識は高い。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の希望やその時々々の季節のメニューや畑の野菜等の旬の物を取り入れており、カロリー計算も毎食ごとに記載されている。献立表を法人の管理栄養士に見てもらい、献立表にコメントが記入されている。食事量や水分摂取量共に記録されており、水分量が不足する場合には好みの飲み物で補給している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム全体が清潔感にあふれ居心地の良い環境の中で利用者のゆったりとした生活が営まれている。玄関にはご家族の手芸品が飾られ、壁には季節ごとの行事や外出時の写真が掲示されており、クリスマスツリー等の季節の装飾がされている。ご家族が気軽に出入りできる環境を整えており、居心地良く過ごせる空間になっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の扉には手作りの花や暖簾が飾られており、室内にもそれぞれの手作り作品や家族の写真が飾られている。本人が使い慣れた家具が持ち込まれ、家具の配置も本人の好みにより変えている。室内には洗面、トイレが完備されておりプライバシーを保ち、生活にゆとりをもたらしている。		